

2026年度
1年次

大学院 医学研究科
シラバス
SYLLABUS

病院経営学・管理学専攻
専門職学位課程

Master's Course in Hospital
& Health Administration
MHHA



藤田医科大学大学院
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GRADUATE SCHOOLS

目 次

大学院医学研究科の3方針	1
修得単位・教育課程表・修了要件及び履修方法・学位取得までの流れ	2
教育課程及び授業科目の概要	5
時間割 2026年度1年次	9
時間割 2027年度2年次	11

病院経営学

リーダーシップ・ガバナンス	12
財務会計論・経営分析・コスト分析	14
地域包括ケア・医療マーケティング	16
医療経済学	17
病院経営戦略論	19
フィールドワーク	20

病院管理学

病院管理学・機能評価	22
医療の質管理・患者安全・倫理	23
病院設計・施設設備・医薬品医療材料管理	25

医療政策学

医療・介護制度論	26
診療報酬・介護報酬・関連法規	28
医療産業論	30

公衆衛生学

衛生学・公衆衛生学	31
社会行動科学	32
環境健康科学	33
疫学	34
生物統計学	35

総合学習

病院経営の実際・病院再編統合	36
実践的に考える組織・人材マネジメント	37
多視点から考える総合経営	38
課題研究	40
2026年度 科目担当教員	41

大学院医学研究科の3方針

[専門職学位課程]

1. 入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）

医学研究科専門職学位課程では、以下のような人の入学を求めている。

1. 課程を修了するための十分な医学知識および実務経験を有している人
2. 病院において指導者として活躍する情熱のある人
3. 誠実で協調性に優れ、責任感と倫理性を有し、業務を遂行できる人
4. 医療現場で生じる様々な問題の解決に向けて、自ら研究課題に取り組む目的意識のある人

2. 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

医学研究科専門職学位課程では、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 病院経営に求められる高度専門的な知識を獲得し、その基本的能力を養うため、「病院経営学」・「病院管理学」・「医療政策学」の3つの領域を基軸とした教育を行う。
2. 病院経営の実践において固有の専門知識を要するテーマについて学修し、我が国の医療制度の下で国際標準レベルの医療を実現させるため、幅広い分野の知見を統合した問題解決能力を身につけるための教育を行う。
3. 実際に生じた医療現場の課題に関する事例を用いて学生が相互にかつ自発的に討論を反復して訓練することで、病院経営における課題解決を経験し自らのものとする訓練を行う教育手法により、経営戦略を思考する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術を修得するための教育を行う。

3. 課程修了認定基準（ディプロマポリシー）

医学研究科専門職学位課程では、1年6ヵ月在学し、所定の単位を修得し、病院経営学・病院管理学課題研究にて、以下の知識・技能・能力を修得したと認められる者に修士（専門職）の学位を授与する。

1. 病院経営学・管理学のコア領域「病院経営学」、「病院管理学」、「医療政策学」に関する専門知識・技能の基本的理解
2. 地域社会への理解と高い倫理感を持つ医療人として、経営戦略を思考する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術、多職種役割を理解し連携する能力
3. 病院経営の現場で生じる課題を発見し、多職種連携の中核を担うリーダーとして、課題解決のために組織を動かし遂行できる能力

修得単位・教育課程表

分野	科目名	単位数 (時間数)	1年		2年
			必修	前期	後期
公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学	1(15)		1	
	社会行動科学	1(15)		1	
	環境健康科学	1(15)		1	
	疫学	1(15)		1	
	生物統計学	1(15)		1	
病院経営学	リーダーシップ・ガバナンス	2(30)		2	
	財務会計論・経営分析・コスト分析	2(30)		2	
	地域包括ケア・医療マーケティング	1(15)		1	
	医療経済学	1(15)		1	
	病院経営戦略論	1(15)		1	
	フィールドワーク	2(42)			2
病院管理学	病院管理学・機能評価	1(15)			1
	医療の質管理・患者安全・倫理	2(30)			2
	病院設計・施設設備・医薬品医療材料管理	1(15)			1
医療政策学	医療・介護制度論	2(30)			2
	診療報酬・介護報酬・関連法規	1(15)			1
	医療産業論	1(15)			1
総合学習	病院経営の実際・病院再編統合	1(15)			1
	実践的に考える組織・人材マネジメント	1(15)			1
	多視点から考える総合経営	2(30)			2
	課題研究	4(60)			4
合計修得単位数		30 単位		—	

修了要件及び履修方法

1. 修了要件

修得単位・教育課程表に記載の科目を履修し、在学期間中（標準修業年限1年6か月）に30単位を修得してください。

2. 履修科目と単位

修得単位・教育課程表に記載された全ての科目が必修であり、それぞれの授業形態に応じ、単位数とコマ数が決められています。

- ・講義：24単位（1コマ90分とし、8コマで1単位、15コマで2単位）
- ・フィールドワーク：2単位（講義9コマ、実習12コマ）
- ・課題研究：4単位（30コマ）

3. 履修期間と講義時間

履修期間について、前期を4～9月、後期を10～3月とし、次の講義時間に各科目を履修してください。授業日程については、時間割（学務課より配付）を参照してください。

1限目 9:00～10:30 2限目 10:40～12:10 3限目 13:00～14:30 4限目 14:40～16:10

4. 授業の方法

授業は、実習（現地訪問）を除き、原則としてオンラインで行います。また、学生の復習及び授業内容の改善を目的として録画し、オンデマンドで視聴できるようにします。オンライン授業への参加方法及び録画の視聴方法については、別途案内します。

5. 成績評価

授業の構成単位をA（100-80点）、B（79-70点）、C（69-60点）またはD（60点未満）にて判定し、C以上を合格、Dを不合格とします。成績評価は、大学院学務情報システム上で公開します。

6. 成績評価に対する質問等

成績評価に関し質問がある場合には、申し出ることができます。その場合、速やかに科目責任者から回答を行います。また、成績評価に関し不服がある場合、申立てを行うことができます。その場合、本専攻で検討のうえ、申立ての容認の可否について医学研究科担当から回答を行います。

<質問・不服申立て先>

医学部事務部学務課医学研究科担当 メールアドレス：med-7@fujita-hu.ac.jp

7. 出欠の確認と欠席の取り扱い

授業開始時に科目責任者が出席を取ります。授業開始時間から20分を経過した時点で欠席となります。授業を欠席せざるを得ない場合（例えば、災害、事故、通信障害、親族の忌引き、学会発表等）は、科目責任者に相談し、その指示に従ってください。授業時間数の3分の2以上に出席しなければ、単位取得は認められません。出席の要件に関し疑問等がある場合は、科目責任者又は担任教員に相談してください。

学位取得までの流れ

下記の表は、専門職学位課程の標準修業年限（1年6か月）の間に、様々な授業科目を受講しつつ、課題研究成果物報告書を提出し、学位論文審査に合格したうえ、修士（専門職）の学位を取得できるまでの流れを示しています。

1年次	4月	履修科目届の提出、科目（前期）の履修開始
	6月	課題研究のテーマ等の検討開始
	10月	科目（後期）の履修開始
	10月10日	課題研究履修等についてオリエンテーション
	12月	フィールドワーク（現地訪問）
	11月～12月	指導教員と相談し、課題研究のテーマを決定、研究計画立案
	12月末	課題研究計画書を提出
	1月～	研究成果物の骨子案を作成
	2月6日	課題研究骨子報告会
	2月～	研究の進捗状況を踏まえ、指導教員と相談し、研究計画を見直し 課題研究中間報告会に向けて、中間報告案を作成
2年次	4月	科目（前期）の履修開始
	5月8・15日	課題研究中間報告会
	5月～6月	教員及び他の受講生からのフィードバックを踏まえ、研究内容を改善 課題研究成果物報告書の作成
	7月	課題研究成果物報告書を提出 課題研究成果物報告書受理の審議・承認
	8月7日	課題研究成果物報告会・学位論文審査委員会の実施 ※課題研究内容のプレゼンテーションと質疑応答
	8月下旬	大学院医学研究科委員会での学位論文審査結果の承認
	9月下旬	学位授与

教育課程及び授業科目の概要

1. 教育課程の体系

公衆衛生系専門職大学院である本学の教育課程（カリキュラム）は、基本専門領域と位置付けられる「公衆衛生学分野」の科目に加え、本学固有の目的に沿った重点的な専門領域である4分野（病院経営学・病院管理学・医療政策学・総合学習）の科目から構成されています。「公衆衛生学分野」には、公衆衛生学のコア領域の科目を配置し、他の4分野には、病院の経営・管理に必要な高度専門的な知識・能力を身に付けるための多様な科目を配置しています。これらの科目を履修することにより、地域全体や社会全体という視点（マクロ）から、病院経営・管理の理論と実践を系統的・段階的に学ぶことができるよう配慮しています。

入学後の1年次では、まず、公衆衛生学と病院経営・管理に関する専門的知識を幅広く修得します。「公衆衛生学分野」には、衛生学・公衆衛生学をはじめ公衆衛生学のコアとなる科目を配置しています。「医療政策学分野」には医療・介護制度論、診療報酬・介護報酬・関連法規等の科目、「病院経営学分野」には病院の組織、ガバナンス、財務、経営戦略等に関する科目、「病院管理学分野」には医療の質や安全の管理、倫理等に関する科目を配置しています。また、1年次の後期には、これらの科目で学んだ幅広い分野の理論や知識を統合するため、フィールドワークを配置し、現地調査やグループワークの機会を設けています。

2年次では、「総合学習分野」の各科目において、病院の現場で実際に生じる問題に対応するための様々な方法論等を学びつつ、学生が自発的に考えるための姿勢・能力を養います。課題研究では、指導教員の個別指導を受けながら、学位論文執筆のための研究、論文執筆、発表等を行います。

学生は、これらの科目を受講することを通じて、病院経営の現場で生じる課題を発見し、課題解決のための戦略を立て、組織を動かすことができる能力を修得するほか、高い倫理観を持つ医療人として、国際的な視点も踏まえながら地域社会やステークホルダーとの関係を理解・配慮する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術、多職種役割を理解し連携する能力等を身に付けることができます。

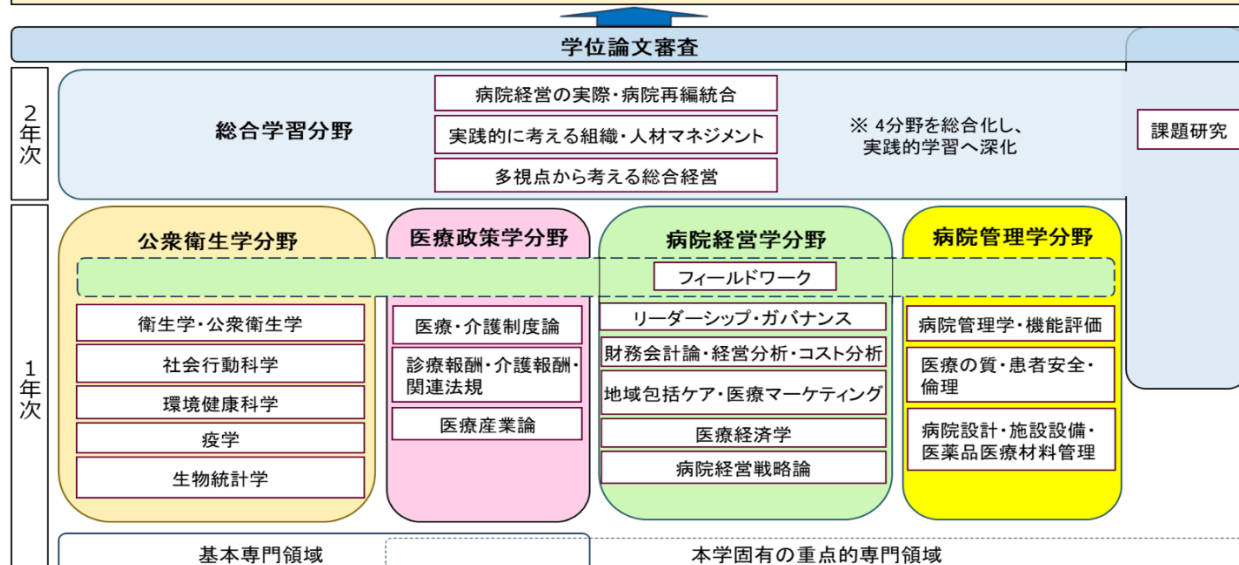
なお、これらの教育を効果的に行うため、現役の病院経営者を始め、病院経営・管理や制度・政策に造詣の深い多数の有識者が講師として参加します。

教育課程の体系(カリキュラムツリー)

○ 公衆衛生系専門職大学院である本学の教育課程は、基本専門領域である「公衆衛生学分野」の科目、それを基盤とする本学固有の重点的専門領域である「病院経営学」、「病院管理学」、「医療政策学」及び「総合学習」の4分野の科目から構成。

【ディプロマポリシー】

1. 病院経営学・管理学のコア領域に関する専門知識・技能の基本的理解
2. 地域社会への理解と高い倫理観を持つ医療人として、経営戦略を思考する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術、多職種役割を理解し連携する能力
3. 病院経営の現場で生じる課題を発見し、多職種連携の中核を担うリーダーとして、課題解決のために組織を動かして遂行できる能力



2. 授業科目の概要

(1) 公衆衛生学分野

公衆衛生学分野では、公衆衛生学のコア領域に位置づけられる科目を配置しています。これらの科目を履修することにより公衆衛生系専門職としての資質・能力を涵養し、地域全体や社会全体という視点（マクロ）から、持続可能かつ需要に即した医療サービス提供に繋がることが期待されます。

科目名	授業の内容
衛生学・公衆衛生学	公衆衛生の定義と歴史的発展、健康の概念と健康の社会的決定要因、疾病予防の段階とヘルスプロモーションの理論、保健統計と健康指標、感染症対策と予防接種政策、生活習慣病対策、保健行政・公衆衛生法規、公衆衛生の将来課題等を学ぶ。
社会行動科学	社会行動科学の基礎と公衆衛生への応用、個人レベルの健康行動理論、社会的認知理論と集団行動、コミュニティ・エンパワーメントと参加型アプローチ、健康教育とヘルスコミュニケーション、社会資本と健康格差、行動科学的介入の設計と評価、公衆衛生実践における社会行動科学の展望等を学ぶ。
環境健康科学	環境と健康の関係概論、大気汚染、水質・食品汚染、化学物質・内分泌かく乱物質、放射線、騒音、気候変動等とそれらの健康影響、環境リスク評価とリスク管理、環境政策と環境基準、国際枠組み、環境保健の課題等を学ぶ。
疫学	疫学の基礎概念と役割、疫学指標、観察研究、実験的研究、バイアス・交絡・効果修飾、疫学的データの解釈と因果推論、疫学研究の倫理とデータ管理、疫学の応用等を学ぶ。
生物統計学	生物統計学の役割とデータの基本、データの記述と要約、推定と検定、相関と回帰、主要な解析方法（回帰分析、ロジスティック回帰等）、統計解析ソフトを用いた演習と解釈等を学ぶ。

(2) 病院経営学分野

病院経営学分野では、病院の経営に関する幅広い知識を身に付けるため、病院を経営する組織のあり方、ガバナンス等に関する理論や制度、財務会計の知識、地域包括ケア等の動向、医療マーケティング、医療経済学、病院経営戦略の策定等に関する科目を配置しています。また、他の分野の科目を含め、現場の実情に即して、学んだ知識を統合する観点から、フィールドワークの科目を置き、藤田医科大学附属病院等における現地調査やグループワーク等を行います。

科目名	授業の内容
リーダーシップ・ガバナンス	リーダーシップ、集団や組織、動機付け等に関する基礎理論に加え、サービス提供組織の特徴、ガバナンスや内部統制の要点を把握するとともに、病院経営学・管理学分野の科目に関連する基礎的・入門的知識を体系的に理解する。
財務会計論・経営分析・コスト分析	病院経営に携わる者に必要な病院の財務会計、財務分析、原価計算、資金調達等に関する基礎的知識を学ぶとともに、病院経営の状況を適切に把握・分析するために必要な経営指標の見方や指標を用いた経営戦略策定の考え方を理解する。
地域包括ケア・医療マーケティング	地域包括ケアシステムの構築を含む地域共生社会の実現に向けた政策・制度等の動きを理解するとともに、病院のマーケティング戦略立案のための理論や方法に関する知識を身に付ける。
医療経済学	ミクロ経済理論や医療サービスの特徴を理解するとともに、規制の背景にある経済学的考え方を学ぶ。また、ヘルスサービスリサーチの視点から、医療の質・効率・公正などの理論を学ぶとともに、健康医療介護における行動経済学や組織文化の可視化等について理解する。
病院経営戦略論	病院DXを含む病院経営戦略策定の考え方や方法、健康経営のあり方、病院経営戦略策定の実際等を学ぶ。

フィールドワーク	藤田医科大学病院及び同病院の地域指向的急性期医療と医療科学部の地域ケア実践指向を総合的に組み合わせたモデルを実践する地域包括ケア中核センターを一例として採り上げ、経営責任者からの講義、グループワーク、現地訪問等により、それらの経営・管理上の現状と課題を学び、その解決方法を検討する。
----------	---

(3) 病院管理学分野

病院管理学分野では、病院の管理に資する知識を幅広く身に付けるため、医療の質・安全の確保や倫理の問題、病院の第三者評価、人材マネジメント、医薬品・医療材料のマネジメント、病院設計・施設設備のマネジメントに関する科目を配置しています。

科目名	授業の内容
病院管理学・機能評価	病院管理の全体像を概観したうえ、医療の質の向上と医療安全の確保の観点から、病院の第三者評価の考え方、日本医療機能評価機構による病院機能評価の仕組み等を学ぶ。また、人材マネジメントに関する基礎的知識を身に付ける。
医療の質管理・患者安全・倫理	生命倫理に対する考え方、個人情報保護のあり方、医療の質向上や医療安全の確保のための方策、医療事故発生の防止及び発生時の対応等を学ぶ。
病院設計・施設設備・医薬品医療材料管理	医薬品・医療材料のマネジメントの実践的方法、病院に必要な物理的環境要件を踏まえた病院設計・施設設備に関する知識と建築マネジメントの方法を学ぶ。

(4) 医療政策学分野

医療政策学分野では、病院経営に大きな影響を与える医療・介護の制度・政策とその変化の方向性を理解するため、社会保障制度や診療報酬・介護報酬制度の考え方や仕組みを学ぶための科目、日本の医療の国際的な立ち位置と病院経営の将来を考えるための科目を配置しています。

科目名	授業の内容
医療・介護制度論	医療・介護を中心として、社会保障制度の理念、考え方、歴史、仕組み、財源等について学び、社会保障制度の現状と課題に対する理解を深めるとともに、今後の方向性を考察する。
診療報酬・介護報酬・関連法規	診療報酬制度・介護報酬制度に関する基礎的な知識とともに、関連する規則等の内容を学ぶ。また、診療報酬審査支払制度の仕組み、社会保険診療報酬支払基金の改革と医療 DX の推進に向けた取組みを理解する。
医療産業論	諸外国との間で医療・介護制度や医療の質についての国際比較を行い、日本の特徴と現在の立ち位置を確認するとともに、医療保険制度等の将来を展望しつつ、病院経営の未来を考察する。

(5) 総合学習分野

総合学習分野では、病院経営・管理の実践に向けて課題解決能力を向上させるため、経営戦略、組織・人材マネジメント等に関し、病院経営者や各界の有識者から多様な視点に基づく話を聞くための科目を配置しています。また、課題研究では、指導教員の個別指導を受けつつ、学位論文の作成を行います。

科目名	授業内容
病院経営の実際・病院再編統合	病院経営者等から、地域医療や病院経営のあり方等について豊富な経験に基づく話を聞き、自院の経営について考える上での知見を得る。
実践的に考える組織・人材マネジメント	病院経営者等から、現場において直面する組織・人材マネジメント上の様々な課題について話を聞き、自院における組織・人材マネジメントのあり方を考える上での知見を得る。
多視点から考える総合経営	病院経営者等を含む各界の有識者から、多様な視点に基づき、病院経営を円滑に進めるうえで重要となる事項について話を聞き、病院経営とそれらの視点との関連を理解し、自院の経営について考える上での知見を得る。

課題研究	様々な授業で得られた知識を踏まえ、研究対象とする病院の経営課題を見出し、研究テーマを設定したうえ、課題解決に向けた経営戦略を策定するとともに、その結果を成果物報告書としてとりまとめる。
------	--

3. 授業科目と学習成果の関係（カリキュラムマップ）

下表に、ディプロマポリシー（課程修了認定基準）に即して、個々の授業科目において期待される主な学習成果を示しています。

学生は、それぞれの科目の学習成果を意識しながら受講することが求められます。

<ディプロマポリシー>

- D1. 病院経営学・管理学のコア領域に関する専門知識・技能の基本的理解
- D2. 地域社会への理解と高い倫理観を持つ医療人として、経営戦略を思考する能力、他者の意見を聞く技術、自身の意見を明確に説明する技術、多職種役割を理解し連携する能力
- D3. 病院経営の現場で生じる課題を発見し、多職種連携の中核を担うリーダーとして、課題解決のために組織を動かし遂行できる能力

分野	科目名	期待される学習成果 (主なもの)		
		D 1	D 2	D 3
公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学	○	○	
	社会行動科学	○	○	
	環境健康科学	○	○	
	疫学	○	○	
	生物統計学	○	○	
病院経営学	リーダーシップ・ガバナンス	○	○	○
	財務会計論・経営分析・コスト分析	○	○	
	地域包括ケア・医療マーケティング	○	○	
	医療経済学	○		
	病院経営戦略論	○	○	
	フィールドワーク		○	○
病院管理学	病院管理学・機能評価	○		
	医療の質管理・患者安全・倫理	○	○	
	病院設計・施設設備・医薬品医療材料管理	○		
医療政策学	医療・介護制度論	○	○	
	診療報酬・介護報酬・関連法規	○		
	医療産業論	○		
総合学習	病院経営の実際・病院再編統合		○	○
	実践的に考える組織・人材マネジメント		○	○
	多視点から考える総合経営		○	○
	課題研究		○	○

1年次					
時間		1	2	3	4
	日付	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10
2026年 4月	4日 (土)				
	11日 (土)				
	18日 (土)	リーダーシップ・ガバナンス ①② 三浦公嗣・亀井美登里・伊藤善典		リーダーシップ・ガバナンス ③④ 伊藤善典	
	25日 (土)	リーダーシップ・ガバナンス ⑤⑥ 小山秀夫		リーダーシップ・ガバナンス ⑦⑧ 伊藤善典	
5月	2日 (土)	リーダーシップ・ガバナンス ⑨⑩ 伊藤善典			リーダーシップ・ガバナンス ⑪ 伊藤善典
	9日 (土)	地域包括ケア・医療マーケティング ①② 辻一郎		リーダーシップ・ガバナンス ⑫⑬ 伊藤善典	
	16日 (土)	地域包括ケア・医療マーケティング ③④ 真野俊樹		地域包括ケア・医療マーケティング ⑤⑥ 堀江裕	
	23日 (土)	医療経済学 ①② 伊藤善典		リーダーシップ・ガバナンス ⑭⑮ 眞野恵子	
	30日 (土)	医療経済学 ③④ 伊藤善典		地域包括ケア・医療マーケティング ⑦ 金田嘉清	地域包括ケア・医療マーケティング ⑧ 都築晃
6月	6日 (土)	医療経済学 ⑤⑥ 今中雄一		財務会計論・経営分析・コスト分析 ①② 橋本公成	
	13日 (土)	医療経済学 ⑦⑧ 田中将之		財務会計論・経営分析・コスト分析 ③④ 橋本公成	
	20日 (土)	病院経営戦略論 ①② 森川富昭		財務会計論・経営分析・コスト分析 ⑤⑥ 佐藤忠明	
	27日 (土)	病院経営戦略論 ③④ 森川富昭		財務会計論・経営分析・コスト分析 ⑦⑧ 清水健志	
7月	4日 (土)	病院経営戦略論 ⑤⑥ 飯塚勝美		病院経営戦略論 ⑦⑧ 成田吉明	
	11日 (土)	財務会計論・経営分析・コスト分析 ⑨⑩ 辻井芳樹		財務会計論・経営分析・コスト分析 ⑪⑫ 赤宗謙太	
	18日 (土)		財務会計論・経営分析・コスト分析 ⑬ 赤宗謙太	財務会計論・経営分析・コスト分析 ⑭⑮ 恩田勲	
	25日 (土)	衛生学・公衆衛生学 ①② 太田充彦		社会行動科学 ①② 曾根智史	
8月	1日 (土)	衛生学・公衆衛生学 ③④ 松永眞章		社会行動科学 ③④ 太田充彦	
	8日 (土)	衛生学・公衆衛生学 ⑤⑥ 亀井美登里		社会行動科学 ⑤⑥ 清野富久江	
	15日 (土)	衛生学・公衆衛生学 ⑦⑧ 八谷寛		環境健康科学 ①② 亀井美登里	
	22日 (土)	社会行動科学 ⑦⑧ 藤江里衣子		環境健康科学 ③④ 山田宏哉	
	29日 (土)	疫学 ①② 太田充彦		環境健康科学 ⑤⑥ 若月徹	
9月	5日 (土)	疫学 ③④ 山田宏哉		環境健康科学 ⑦⑧ 若月徹	
	12日 (土)	疫学 ⑤⑥ 八谷寛		生物統計学 ①② 吉本潤一郎	
	19日 (土)	疫学 ⑦⑧ 松永眞章		生物統計学 ③④ 嘉田晃子	
	26日 (土)	生物統計学 ⑤⑥ 國澤進		生物統計学 ⑦⑧ 宇田淳	

1年次					
時間		1	2	3	4
	時間	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10
	日付				
10月	3日 (土)	病院管理学・機能評価 ①② 池上直己		病院管理学・機能評価 ③④ 上田茂	
	10日 (土)	医療の質管理・患者安全・倫理 ①② 安田あゆ子		フィールドワーク 内部環境分析① 今泉和良	課題研究 ① 三浦公嗣・亀井美登里・伊藤善典
	17日 (土)	フィールドワーク 外部環境分析② 木下隆志	フィールドワーク 内部環境分析③ 金田嘉清	フィールドワーク 外部環境分析④ 都築晃	フィールドワーク 外部環境分析⑤ 今泉和良
	24日 (土)	病院管理学・機能評価 ⑤⑥ 上田茂		フィールドワーク 事前学習⑥⑦ 木下隆志	
	31日 (土)	病院管理学・機能評価 ⑦⑧ 伊藤善典		医療の質管理・患者安全・倫理 ③④ 飯島祥彦	
11月	7日 (土)	フィールドワーク 事前学習⑧⑨ 木下隆志		医療の質管理・患者安全・倫理 ⑤ 飯島祥彦	
	14日 (土)	医療の質管理・患者安全・倫理 ⑥⑦ 安田あゆ子		医療の質管理・患者安全・倫理 ⑧⑨ 田原克志	
	21日 (土)	医療の質管理・患者安全・倫理 ⑩⑪ 田原克志		フィールドワーク 実習⑩⑪ 三浦公嗣・木下隆志	
	28日 (土)	医療の質管理・患者安全・倫理 ⑫⑬ 長沼寛之		フィールドワーク 実習⑫⑬ 三浦公嗣・木下隆志	
12月	5日 (土)	医療の質管理・患者安全・倫理 ⑭⑮ 渡邊健司		フィールドワーク 実習⑭⑮ 三浦公嗣・木下隆志	
	12日 (土)			フィールドワーク 実習〈現地訪問：藤田医科大学病院〉⑯ 三浦公嗣・今泉和良・木下隆志	フィールドワーク 実習〈現地訪問：藤田医科大学病院〉⑰ 三浦公嗣・木下隆志
	19日 (土)			フィールドワーク 実習〈現地訪問：藤田医科大学地域包 括ケア中核センター〉⑱ 三浦公嗣・金田嘉清・都築晃・木下隆志	フィールドワーク 実習〈現地訪問：藤田医科大学地域包 括ケア中核センター〉⑲ 三浦公嗣・木下隆志
	26日 (土)	病院設計・施設設備・医薬品医療材料管理 ①② 山田成樹		病院設計・施設設備・医薬品医療材料管理 ③④ 寛淳夫	
2027年 1月	2日 (土)	年始休暇			
	9日 (土)	病院設計・施設設備・医薬品医療材料管理 ⑤⑥ 山田成樹		病院設計・施設設備・医薬品医療材料管理 ⑦⑧ 寛淳夫	
	16日 (土)	医療・介護制度論 ①② 伊藤善典		診療報酬・介護報酬・関連法規 ①② 宇都宮啓	
	23日 (土)	医療・介護制度論 ③④ 伊藤善典		診療報酬・介護報酬・関連法規 ③ 三浦公嗣	医療・介護制度論 ⑤ 伊藤善典
	30日 (土)	医療・介護制度論 ⑥⑦ 伊藤善典		フィールドワーク 実習⑳㉑ 三浦公嗣・木下隆志	
2月	6日 (土)	医療・介護制度論 ⑧ 伊藤善典	課題研究 ⑩ 三浦公嗣・亀井美登里・伊藤善典	診療報酬・介護報酬・関連法規 ④⑤ 古元重和	
	13日 (土)	医療・介護制度論 ⑨⑩ 香取照幸		診療報酬・介護報酬・関連法規 ⑥ 伊藤善典	医療・介護制度論 ⑪ 川又竹男
	20日 (土)	医療・介護制度論 ⑫⑬ 藤林慶子		医療・介護制度論 ⑭⑮ 葛西健	
	27日 (土)		診療報酬・介護報酬・関連法規 ⑦ 神田裕二	医療産業論 ①② 伊藤善典	
3月	6日 (土)	医療産業論 ③④ 一戸和成		医療産業論 ⑤⑥ 村川修一	
	13日 (土)		診療報酬・介護報酬・関連法規 ⑧ 神田裕二	医療産業論 ⑦⑧ 真野俊樹	
	20日 (土)				
	27日 (土)				

		2年次			
時限	時間	1	2	3	4
	日付	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10
2027年 4月	3日 (土)	実践的に考える組織・人材マネジメント ①② 野々村純		病院経営の実際・病院再編統合 ①② 仲井培雄	
	10日 (土)	実践的に考える組織・人材マネジメント ③④ 中島雄一		病院経営の実際・病院再編統合 ③④ 伊藤伸一	
	17日 (土)	実践的に考える組織・人材マネジメント ⑤⑥ 浅野晃司		病院経営の実際・病院再編統合 ⑤⑥ 江澤和彦	
	24日 (土)	実践的に考える組織・人材マネジメント ⑦⑧ 石川賀代		病院経営の実際・病院再編統合 ⑦⑧ 相澤孝夫	
5月	1日 (土)	GW			
	8日 (土)	多視点から考える総合経営 ①② 斎藤正身		課題研究 中間報告会1 ⑰⑱ 三浦公嗣・亀井美登里・伊藤善典	
	15日 (土)	多視点から考える総合経営 ③④ 橋本康子		課題研究 中間報告会2 ⑲⑳ 三浦公嗣・亀井美登里・伊藤善典	
	22日 (土)	多視点から考える総合経営 ⑤⑥ 眞野恵子			
	29日 (土)	多視点から考える総合経営 ⑦⑧ 若月徹			
6月	5日 (土)	多視点から考える総合経営 ⑨⑩ 新井ゆたか			
	12日 (土)	多視点から考える総合経営 ⑪⑫ 山内昌彦			
	19日 (土)	多視点から考える総合経営 ⑬⑭ 南砂		多視点から考える総合経営 ⑮ 正林和子	
	26日 (土)				
7月	3日 (土)				
	10日 (土)				
	17日 (土)				
	24日 (土)				
	31日 (土)				
8月	7日 (土)	課題研究 成果物報告会 ㉑㉒㉓ 三浦公嗣・亀井美登里・伊藤善典			
	14日 (土)				
	21日 (土)	学位審査			
	28日 (土)				
9月	4日 (土)				
	11日 (土)				
	18日 (土)				
	25日 (土)				

リーダーシップ・ガバナンス

分野	病院経営学	学年	1年	期間	前期
授業形態	講義	単位	2単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	伊藤善典				
担当教員	伊藤善典、亀井美登里、小山秀夫、眞野恵子、三浦公嗣				
科目概要	<p>病院を含め、組織の経営を行うためには、適切なガバナンスと内部統制が必要である。ガバナンスとは、法人の経営を行うための管理・統治の仕組みであり、外部関係者の監視を含め、経営者の適切な業務執行を確保するための組織や権限配分などが問題となる。また、適切な経営を行うためには、コンプライアンス（法令順守）とリスクマネジメントを中心として、法人内の様々な資源の統制を行うことも重要である（内部統制）。さらに、環境の変化に対応し、組織を維持・発展させていくためには、経営者を始め、組織の各段階におけるリーダーシップの発揮が重要となる。リーダーシップとは、一般的には、組織の目標を定め、その力を最大化し、成果を出していく能力のことであるが、組織・業務の性格や職場環境の違いによって必要とされるリーダーシップのタイプは異なる可能性がある。</p> <p>この授業では、このような視点から、リーダーシップ、集団や組織、動機付け等に関する基礎理論に加え、サービス提供組織の特徴、ガバナンスや内部統制の要点を把握するとともに、病院経営学・管理学分野の科目に関連する基礎的・入門的知識を体系的に理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p>				
到達目標	病院経営を適切に行うためには、リーダーシップとガバナンスが重要であることを理解するとともに、病院経営者として組織運営のあり方を考えていくために必要となる基礎的・入門的な理論と知識を身に付ける。				
回数	講義内容				担当教員
1	専門職学位課程の最初の講義であるため、全体を通じたオリエンテーション（授業日程、受講方法等）や質疑応答を行うとともに、アイスブレイクを行い、適切かつ円滑に授業に参加できるための環境を整える。（講義形式・ディスカッション形式）				三浦公嗣 亀井美登里 伊藤善典
2					
3	<p>（組織経営の基礎①）</p> <p>サービス提供組織として法人格を有することの意義を理解するとともに、法人の基本的な形態・種類、病院を経営する法人に求められる非営利性や公益性の概念を学ぶ。（講義形式）</p>				伊藤善典
4	<p>（組織経営の基礎②）</p> <p>日本で代表的な病院経営主体である医療法人の種類、特徴、事業等について学ぶ。（講義形式）</p>				
5	<p>（医療現場における理論の応用等）</p> <p>各種理論を整理し、ガバナンスの枠組みを医療組織に応用するとともに、病院におけるリーダー育成、デジタル透明性などを議論し、医療現場における「持続可能な信頼」の構築を目指す。（講義形式）</p>				小山秀夫
6					
7	<p>（組織経営の基礎③）</p> <p>病院経営主体としての政府関係法人、社会福祉法人等の組織の特徴を学ぶ。（講義形式）</p>				伊藤善典
8	<p>（組織経営の基礎④）</p> <p>病院の新規開設が認められていない株式会社の特徴を理解する。また、経営戦略や組織文化の基礎的知識を学ぶ。（講義形式）</p>				
9	<p>（組織経営の基礎⑤）</p> <p>組織と集団の力学に関する基礎理論を学び、それらを自ら属する組織に当てはめながら理解を深める。（講義形式）</p>				

10	(組織経営の基礎⑥) リーダーシップ、動機付け、チームアプローチ等に関する基礎理論を学び、それらを自ら属する組織に当てはめながら理解を深める。 (講義形式)				
11	(組織経営の基礎⑦) ガバナンス・内部統制の意義を学ぶとともに、コンプライアンス、内部監査、リスク管理と危機管理等に関する基礎的知識を学ぶ。(講義形式)				
12	(組織経営の基礎⑧) サービスの質の管理、情報の管理と活用、財務管理、組織間連携等の入門的知識を学ぶ。(講義形式)				
13	(組織経営の基礎⑨) 労働法、労働契約、労働時間管理、労働災害防止、ハラスメント防止など、労務管理に関する基礎的知識を身に付ける。(講義形式)				
14	(看護管理の実践事例から) 競争激化により病院の淘汰が進む中、組織の存続は、最大の人的資源である看護部門を経営戦略の実現にいかに関与するか懸かっている。看護管理の実践事例から、患者満足と収益確保の論理的関連を理解する。医師・看護師を含む全職員のベクトルを合わせ、病院全体を牽引するガバナンスの視座から、自施設の現状を鋭く分析し、解決すべき具体的な経営課題を抽出する。(講義形式)				
15		眞野恵子			
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、ディスカッションへの貢献度、リアクションペーパー等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	伊藤善典	随時	メール等	随時	yoshinori.ito.sv<at>fujita-hu.ac.jp
	亀井美登里	随時	メール等	随時	midori.kamei<at>fujita-hu.ac.jp
	眞野恵子	随時	メール等	随時	smano<at>fujita-hu.ac.jp
	三浦公嗣	随時	メール等	随時	drkmiura<at>fujita-hu.ac.jp
	小山秀夫	講義担当日	メール等	講義後	

財務会計論・経営分析・コスト分析

分野	病院経営学	学年	1年	期間	前期
授業形態	講義	単位	2単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	伊藤善典				
担当教員	赤宗謙太、恩田勲、佐藤忠明、清水健志、辻井芳樹、橋本公成				
科目概要	<p>病院経営は、少子高齢化・人口減少、医療費適正化、医療の高度化等によりますます厳しくなる可能性があるが、財務の観点から病院経営の現状を把握・分析したうえ、環境の変化に適切に対応し、経営の改善を進めていくことが不可欠である。</p> <p>この授業では、病院の経営に携わる者に必要な病院の財務会計、財務分析、原価計算、資金調達等に関する基礎的知識を学ぶとともに、病院経営の状況を適切に把握・分析するために必要な経営指標の見方や指標を用いた具体的な経営戦略策定の考え方を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p>				
到達目標	<p>経営分析、原価計算等に関する基礎的知識を修得するとともに、経営指標に基づき、病院経営における財務会計上の諸問題を発見し、解決方を検討できる能力を身に付ける。</p>				
回数	講義内容				担当教員
1	<p>病院経営に携わる医師が不可欠とする財務会計の基礎知識を習得する。経営状況を把握するための基本ツールである財務諸表（B/S, P/L）の基本構造と繋がりを学び、病院の各項目の読み解き方を習得し、病院の収益構造を会計情報から把握する力を養う。（講義形式）</p>				橋本 公成
2					
3	<p>財務会計の知識を実際の経営判断に活かすための財務分析手法を学ぶ。安全性、収益性といった主要な財務指標の概念の理解と、病床利用率、医業収支比率、人件費率、材料費率など、病院特有の財務指標に焦点を当て、その分析と活用方法を習得する。また、経営管理会計の基礎である固定費と変動費の概念を導入し、病院経営における損益分岐点分析の活用について学ぶ。（講義形式）</p>				橋本 公成
4					
5	<p>経営環境が厳しさを増す中、病院の事業継続には複眼的な視座が不可欠である。メガバンク・スーパーゼネコンの病院チームでの経験なども踏まえ、財務に直結する課題を概説。金融機関の与信目線などステークホルダーの視点を交え、持続可能な戦略推進に必要な現状認識力と解決の着眼点の修得を目指す。（講義形式）</p>				佐藤 忠明
6					
7	<p>経営資源が不足し病院経営は「あれも、これも」から「あれか、これか」への転換、すなわち経営的な「トリアージ」が不可欠な局面を迎えている。本講義では、客観性と実現可能性を兼ね備えた事業計画の策定、その事業計画をもとに事業の血液となる「カネ」を調達する方法、調達した資金を資源としていかに配分するかの予算管理の基礎を修得する。（講義形式）</p>				清水 健志
8					
9	<p>この講義は、医療経営に不可欠な医療経営統計データの基礎理解とデータ活用能力の向上を目的とする。このため、統計データの種類を知るところから、公的統計や院内データの読み解き方、経営指標（稼働率・在院日数・収益指標等）の分析までを扱うとともに、統計データに基づく経営課題の発見や意思決定への道筋を学び、医療経営者としてデータに基づいた判断力を養成する。（講義形式）</p>				辻井 芳樹
10					

1 1	この講義は、医療機関の損益構造を管理会計の視点から把握し、経営課題を発見するための能力向上を図ることを目的とする。このため、病院特有の会計構造から、診療科別の損益計算の具体的なステップを扱う。特に重要となる共通費等の合理的な配賦などの論点を扱いつつ、診療科別に計算した結果を基に、戦略的な意思決定や部門間の経営資源の最適配分等の考え方を学び、会計データに基づいた判断力を養成する。(講義形式)	赤宗 謙太			
1 2					
1 3					
1 4	多くの医療機関を監査してきた担当教員の経験を踏まえ、病院経営における財務会計上の問題の発見や解決の方策等について学ぶとともに、病院経営に携わる者としての心構えについて理解を深める。(講義形式)	恩田 勲			
1 5					
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、リアクションペーパー等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先※<at>は@と置き換えて下さい
	伊藤 善典	随時	メール等	随時	yoshinori.ito.sv<at>fujita-hu.ac.jp
	赤宗 謙太	講義担当日	メール等	講義後	
	恩田 勲	講義担当日	メール等	講義後	
	佐藤 忠明	講義担当日	メール等	講義後	
	清水 健志	講義担当日	メール等	講義後	
	辻井 芳樹	講義担当日	メール等	講義後	
橋本 公成	講義担当日	メール等	講義後		

地域包括ケア・医療マーケティング

分野	病院経営学	学年	1年	期間	前期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	伊藤善典				
担当教員	金田嘉清、辻一郎、都築晃、堀江裕、真野俊樹				
科目概要	<p>地域住民に対し、その地域においてより良い医療や介護のサービスを継続的に提供し、患者満足度を最大化するためには、自院の地域における位置づけを明確化することが必要である。</p> <p>この授業では、その前提となる地域包括ケアシステムの構築を含む地域共生社会の実現に向けた動きを理解するとともに、本学の取組みを参考にしつつ、病院のマーケティング戦略立案のための理論や方法に関する知識を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p>				
到達目標	政策の動向を踏まえ、地域における自院の役割や位置づけを明確に説明できる。また、医療マーケティングに関する理論や方法を理解する。				
回数	講義内容				担当教員
1	自院が所在する地域の医療課題を把握・分析するため、公衆衛生学の観点から、地域の住民の健康状態に関する疾患別動向や地域差等を分析するための方法を学ぶ。(講義形式)				辻 一郎
2					
3	病院経営に関連するマーケティングの基礎的理論を学ぶとともに、デジタル化の動き、行動変容、ブランド戦略、患者経験(PX)等について理解する。(講義形式、ディスカッション形式)				真野俊樹
4					
5	誰も取り残さない社会、誰にも役割の持てる社会を志向する地域共生社会に医療経営者・従事者が理解を深めることで、自院の地域における社会的意義の定着が進む。地域共生社会に向けての考え方や実践方法を学ぶ。(講義形式)				堀江 裕
6					
7	地域共生社会の実現に向けて、地域包括ケアシステムの理念、制度・政策の動向を踏まえつつ、地域共生社会や地域医療構想との関連、大学・病院の役割、地域医師会、自治体、地域づくりとの関係等について理解する。(講義形式)				金田嘉清 都築 晃
8					
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、ディスカッションへの貢献度、リアクションペーパー等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	伊藤善典	随時	メール等	随時	yoshinori.ito.sv<at>fujita-hu.ac.jp
	金田嘉清	随時	メール等	随時	yokanada<at>fujita-hu.ac.jp
	都築晃	随時	メール等	随時	atsuzuki<at>fujita-hu.ac.jp
	堀江裕	随時	メール等	随時	yutaka.horie<at>fujita-hu.ac.jp
	辻一郎	講義担当日	メール等	講義後	
真野俊樹	講義担当日	メール等	講義後		

医療経済学

分野	病院経営学	学年	1年	期間	前期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	伊藤善典				
担当教員	伊藤善典、今中雄一、田中将之				
科目概要	<p>病院経営においては、経済社会の変化、医療ニーズの変化、医療技術の進歩、医療に関連した政策・制度の動向等を把握し、柔軟に対応していくことが不可欠であり、それらの状況を理解し、論理的に対応するためには、病院経営に関連する諸事象を医療経済学的に考える態度を身に付けることが有意義である。</p> <p>医療経済学は、ミクロ経済学の医療分野への応用や医療費の経済分析のほか、ヘルスサービスリサーチ（社会的要因、報酬体系、組織の構造とプロセス、アウトカム、医療の質、サービス利用、とコスト、アクセシビリティ等を科学的に探究する研究分野）から構成される。これらに関する理論や知識を身に付けることにより、自院を取り巻く環境変化を適切にとらえ、将来の方向性を考えたり、根拠に基づく提言を行ったりするための基礎的な能力を養うことができる。</p> <p>この授業の前半では、ミクロ経済学の視点から、経済理論の概念や医療サービスの特徴を理解するとともに、医療保険制度や医療サービスに関する規制の背景にある経済学的な考え方を学ぶ。また、後半では、ヘルスサービスリサーチの視点から、医療の質・効率・公正など医療に関する様々な理論や考え方を学ぶとともに、健康医療介護における行動経済学や医療介護の組織文化の可視化・向上等について理解する。（オムニバス方式／全8回）</p>				
到達目標	医療経済学における基礎的な概念や理論を修得し、医療政策・制度の背景にある医療経済学的な視点や考え方を理解できる能力を身に付ける。また、医療経済学の知見を政策立案、病院経営等に具体的にどのように生かすことができるか議論することができる能力を身に付ける。				
回数	講義内容				担当教員
1	ミクロ経済学の基礎理論（需要・供給、価格決定、価格弾力性等）を学ぶとともに、様々な社会課題を分析するための指針となる効率性・公平性の考え方を理解する。（講義形式）				伊藤善典
2	情報の非対称性、診療報酬制度の存在等、医療サービスの特徴を踏まえつつ、医療サービスの需要・供給・価格形成のメカニズムを理解する。（講義形式）				
3	民間保険と社会保険の違いを踏まえつつ、保険の原理、逆選択、リスクセクション、モラルハザード、負担の公平等の考え方を学ぶ。（講義形式）				
4	医療費の動向と増加要因を理解するとともに、病床規制、株式会社による病院経営禁止、自己負担引上げ等の医療費適正化策の背景にある経済学的な議論（医師誘発需要仮説等）を理解する。（講義形式）				
5	医療の財源、そして関連する諸事象の見通しを踏まえ、医療システムの質・効率・公正、持続可能性とレジリエンスの確保・向上の課題を把握する。医療の見える化、原価と収支、医療資源、医療機能の拠点化・分散化・連携、地域医療システムの把握、医療の組織風土・プロフェッショナルリズムの影響などを検討する。さらに、健康・医療・介護や健康危機管理の視点から地域社会と社会的協働のあり方について学ぶ。（講義形式）				今中雄一
6					

7	行動経済学の理論、フレームワーク及び行動変容への適応事例の実際を把握し、健康医療介護において活用できるよう行動経済学を理解する。	田中将之			
8	また、医療介護組織の持続的なサービス提供を実現するために必要となる医療介護組織における文化の可視化と向上のための方策、人材育成方法について理解する。(講義形式)				
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、リアクションペーパー等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	伊藤善典	随時	メール等	随時	yoshinori.ito.sv<at>fujita-hu.ac.jp
	今中雄一	講義担当日	メール等	講義後	
	田中将之	講義担当日	メール等	講義後	

病院経営戦略論

分野	病院経営学	学年	1年	期間	前期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	伊藤善典				
担当教員	飯塚勝美、成田吉明、森川富昭				
科目概要	<p>経済社会環境や制度・政策が急速に変化する中で、病院経営に携わる者は、組織を取り巻く環境の変化を俯瞰的にとらえ、将来を見据えて、長期的な視点に立って組織を維持・発展させていくことが求められる。そのためには、組織が目指す長期的な目標を設定し、その達成手段を定め、計画的に実行するとともに、状況の変化に応じて目標の定期的な評価・見直しを行う必要がある。特に昨今においては、経営戦略の策定に当たり、医療DXによる業務の効率化やサービスの向上、健康経営による人材確保の視点は欠かせない。</p> <p>この授業では、これらの視点も踏まえつつ、自院において経営戦略をどのように策定し、それを実現するためにはどうすればよいのか考えることを目標とする。 (オムニバス方式/全8回)</p>				
到達目標	経営戦略策定の枠組み及び方法、健康経営のあり方等に関する知識を身に付け、時代の要請に応じた経営戦略を考える能力を養う。				
回数	講義内容				担当教員
1	経営の理念、ビジョン及び経営戦略の策定の意義、自院の経営資源や外部環境の分析方法、経営課題の抽出、経営戦略及びそれに基づく経営計画・事業計画の策定の方法等について学ぶ。また、経営戦略において重要度が増している情報化の意義や位置付けを考察する。(講義形式・ディスカッション形式)				森川富昭
2					
3					
4					
5	従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する健康経営の戦略及び目標設定並びにそれらの評価方法等について、ゲストスピーカーの話も踏まえ、好事例を基にした考え方とその実践について学ぶ。(講義形式、ディスカッション形式)				飯塚勝美
6					
7	医療法人経営の病院を着実に成長させ、病院経営を成功に導くためには、どのような理念に基づき、どのような経営戦略を立てればよいか、担当教員の病院経営者としての経験を踏まえ、考察する。(講義形式)				成田吉明
8					
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、ディスカッションへの貢献度、リアクションペーパー等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	伊藤善典	随時	メール等	随時	yoshinori.ito.sv<at>fujita-hu.ac.jp
	飯塚勝美	随時	メール等	随時	katsumi.iizuka<at>fujita-hu.ac.jp
	森川富昭	随時	メール等	随時	tomiki.morikawa<at>fujita-hu.ac.jp
	成田吉明	講義担当日	メール等	講義後	

フィールドワーク

分野	病院経営学	学年	1年	期間	後期
授業形態	講義・実習	単位	2単位	授業方法	遠隔授業・実習
科目責任者	三浦公嗣				
担当教員	三浦公嗣、今泉和良、金田嘉清、木下隆志、都築晃				
科目概要	<p>この授業では、自院における経営・管理上の課題を発見し、課題解決の方向性を考える能力及び方法を身に付けることを目的とする。そのため、藤田医科大学病院及び同病院の地域指向的急性期医療と医療科学部の地域ケア実践指向を総合的に組み合わせたモデルを実践する地域包括ケア中核センターを一例として採り上げ、経営責任者である担当教員からの講義、グループワーク、現地訪問等により、それらの経営・管理上の現状と課題を学び、その解決方法を検討することにより、課題解決に向けた実践的な能力と方法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p>				
到達目標	病院の内部・外部の環境を把握したうえ、病院経営・管理における課題を発見し、その解決の方向性を実践的に考えることができる。				
回数	講義内容				担当教員
1	<p>〈内部環境分析①〉 担当教員の病院長としての経験を踏まえつつ、藤田医科大学病院の経営の現状と課題について考察する。 ※オンラインで実施</p>				今泉和良
2	<p>〈外部環境分析①〉 大学病院としてのミッションを踏まえつつ、地域の基幹病院として求められる役割やそれを支える地域の保健医療福祉に係る資源について考察する。 ※オンラインで実施</p>				木下隆志
3	<p>〈内部環境分析②〉 担当教員の経験や外部環境分析を踏まえつつ、本学が設置する地域包括ケア中核センターの運営の現状と課題について考察する。 ※オンラインで実施</p>				金田嘉清
4	<p>〈外部環境分析②〉 本学が設置する地域包括ケア中核センターのセンター長・副センター長である担当教員から、高齢化が進行するUR豊明団地をはじめとする地域の現状と課題について考察する。 ※オンラインで実施</p>				都築晃
5	<p>〈外部環境分析③〉 高度医療の観点から見た地域医療の現状と課題について考察する。 ※オンラインで実施</p>				今泉和良
6	〈事前学習〉				木下隆志
7	現地実習の成果として求められるものを明確にし、それらが意義あるものとするための方法論等について考察する。				
8	※オンラインで実施				
9					
10	<p>〈実習：グループワーク〉 担当教員から出された外部要因分析・内部要因分析に関する事前課題を踏まえ、現地訪問に向けて、事前に藤田医科大学病院及び地域包括ケア中核センターに関する調査を行い、現地訪問時において確認すべき事項をまとめるなど、現地訪問がより有意義なものとなるための準備をグループワーク形式で行う。</p>				三浦公嗣 木下隆志
11					
12					
13	※オンラインで実施				

14	〈実習：事前課題提出・発表〉 グループワークの成果についてグループごとに発表を行う。	三浦公嗣 木下隆志			
15	※オンラインで実施				
16	〈実習：現地訪問〉 藤田医科大学病院を訪問し、現場の方々から話を伺うことにより、グループワークでの検討結果の妥当性を確認しつつ、課題解決の方向性を考察する。 冒頭にて今泉和良病院長よりご案内 ※藤田医科大学病院で実習	三浦公嗣 今泉和良 木下隆志 ほか			
17	〈実習：現地訪問〉 藤田医科大学病院を訪問し、現場の方々から話を伺うことにより、グループワークでの検討結果の妥当性を確認しつつ、課題解決の方向性を考察する。 ※藤田医科大学病院で実習	三浦公嗣 木下隆志 ほか			
18	〈実習：現地訪問〉 地域包括ケア中核センターを訪問し、現場の方々から話を伺うことにより、グループワークでの検討結果の妥当性を確認しつつ、課題解決の方向性を考察する。 冒頭にて金田嘉清センター長よりご案内 ※藤田医科大学地域包括ケア中核センターで実習	三浦公嗣 金田嘉清 都築 晃 木下隆志 ほか			
19	〈実習：現地訪問〉 地域包括ケア中核センターを訪問し、現場の方々から話を伺うことにより、グループワークでの検討結果の妥当性を確認しつつ、課題解決の方向性を考察する。 ※藤田医科大学地域包括ケア中核センターで実習	三浦公嗣 都築 晃 木下隆志 ほか			
20	〈実習：報告会〉 この授業で学んだ藤田医科大学病院と地域包括ケア中核センターの現状と課題を踏まえ、受講生それぞれが考察した同病院等の課題解決の方向性に関し提言を行う。	三浦公嗣 木下隆志 ほか			
21	※オンラインで実施				
準備学習	ウェブサイト等により、藤田医科大学付属病院及び地域包括ケア中核センターの組織や業務について調べておくことが望ましい。				
成績評価	受講時の取組姿勢、グループワークやディスカッションへの貢献度、報告会の発表内容等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	資料を配布する。参考書については、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	三浦公嗣	随時	メール等	随時	drkmiura<at>fujita-hu.ac.jp
	今泉和良	随時	メール等	随時	jeanluc<at>fujita-hu.ac.jp
	金田嘉清	随時	メール等	随時	yokanada<at>fujita-hu.ac.jp
	都築晃	随時	メール等	随時	atsuzuki<at>fujita-hu.ac.jp
	木下隆志	講義担当日	メール等	講義後	

病院管理学・機能評価

分野	病院管理学	学年	1年	期間	後期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	伊藤善典				
担当教員	池上直己、伊藤善典、上田茂				
科目概要	<p>病院管理学は多様な学問が重なり合って構成される学際的な領域である。病院の管理に関連する幅広い課題について研究が行われており、本課程の病院管理学分野では、人事・労務管理、医療機能評価、生命倫理・医療安全、医薬品・医療材料の管理、病院設計・施設整備などの知識を体系的に修得することとしている。</p> <p>この授業では、まず医師や病院の特異性を理解しつつ、病院管理の全体像を概観したうえで、医療の質の向上と医療安全の確保の観点から、病院の第三者評価の考え方を理解するとともに、日本医療機能評価機構による病院機能評価の仕組み等を学び、病院における取組のあり方を考える。また、人材マネジメントに関する基礎的知識を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p>				
到達目標	病院管理の歴史的な位置づけ等を理解するとともに、医療機能評価の受審や人材マネジメントに取り組むための基礎的知識を修得する。				
回数	講義内容				担当教員
1	病院管理学の基礎的知識を学ぶ。具体的には、日本における病院管理の歴史的な位置づけを理解するとともに、病院の収入源である診療報酬について基礎的知識を身に付ける。(講義形式)				池上直己
2					
3	病院の第三者評価の考え方や制度を学ぶとともに、担当教員が専務理事を務める公益財団法人日本医療機能評価機構が行う病院機能評価事業の仕組みを理解し、病院経営者としてどのように取り組めばよいか考察する。				上田茂
4					
5					
6					
7	人材マネジメントの基礎的知識を体系的に学ぶ。具体的には、雇用慣行の変化を踏まえ、報酬システム、キャリア開発、能力開発、人事評価などの基礎的な理論や仕組みを理解する。(講義形式)				伊藤善典
8					
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、リアクションペーパー等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	伊藤善典	随時	メール等	随時	yoshinori.ito.sv<at>fujita-hu.ac.jp
	池上直己	講義担当日	メール等	講義後	
	上田茂	講義担当日	メール等	講義後	

医療の質管理・患者安全・倫理

分野	病院管理学	学年	1年	期間	後期
授業形態	講義	単位	2単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	三浦公嗣				
担当教員	飯島祥彦、田原克志、長沼寛之、安田あゆ子、渡邊健司				
科目概要	<p>生命に対する尊厳は医療提供システムの根幹的な価値である。近年、医療現場では、社会的関心の高まりにより、医療の質を向上させ、医療安全を確保することが強く求められている。生命倫理に関わる問題、個人情報保護、医療過誤等に対する患者や家族の関心の高まりが見られ、対応を誤れば、病院経営に深刻な影響を及ぼす可能性がある。患者中心の医療を提供するとともに、これらの課題に適切に対応していくためには、病院経営に携わる者がその重要性を理解し、高い意識をもって組織的な対応を促すことが不可欠である。</p> <p>事例も交えて、生命倫理に対する考え方、個人情報保護のあり方、医療の質向上や医療安全の確保のための方策、医療事故発生の防止及び発生時の対応等について学び、医療現場で問題が生じた際に対応できる実践的な能力を養うことを目的とする。 (オムニバス方式/全15回)</p>				
到達目標	生命倫理、個人情報保護、医療安全、医療事故等に対する理解を深め、関連する法制度についての実践的な知識を身に付ける。				
回数	講義内容				担当教員
1	<p>医療安全に対する知識のアップデートを行い、医療提供の基盤となる安全管理体制を組織に構築するためにどのような戦略が必要か考える。医療の質管理の概要をつかみ、ツールや考え方を知識として学ぶ。患者中心の医療を組織的に展開する方略を検討する。 (講義形式・ディスカッション形式)。</p>				安田あゆ子
2					
3	<p>出生前診断、終末期医療、臓器移植といった生命倫理に関わる諸課題にどのように向き合うべきか考察する。また、事例に基づき、個人情報保護と二次利用、情報セキュリティ、それらに関連する法制度など、医療情報を取り扱う上で病院経営に携わる者が理解しておくべき情報管理の基礎知識を学ぶ。 (講義形式・ディスカッション形式)</p>				飯島祥彦
4					
5					
6	<p>医療安全に対する知識のアップデートを行い、医療提供の基盤となる安全管理体制を組織に構築するためにどのような戦略が必要か考える。医療の質管理の概要をつかみ、ツールや考え方を知識として学ぶ。患者中心の医療を組織的に展開する方略を検討する。 (講義形式・ディスカッション形式)。</p>				安田あゆ子
7					
8	<p>医療事故調査制度は、医療事故の再発防止と医療の安全確保を目的として医療法に基づいて実施されている制度である。この制度において、一般社団法人 日本医療安全調査機構は、医療事故調査・支援センターとしての業務を担っており、医療事故が発生した場合に医療機関が行う院内調査結果等の報告を受けて、医療事故の再発防止策の検討・普及啓発、医療事故調査に関する研修の実施等の事業を行っている。同機構の専務理事である担当教員から、医療事故調査制度の仕組み、考え方、現状と課題等について話を聞き、自院における医療事故発生の防止及び医療事故発生時の対応の方策について考察する。 (講義形式)</p>				田原克志
9					
10					
11					

12	過誤が疑われる医療事故が発生した場合、複数の法的性質の異なる責任が問題となる。对患者との関係で発生する民事責任（損害賠償）のほか、刑事責任が問われる事例であれば、警察・検察への対応も必要となる。医療過誤の場面で問題となる法的責任について整理し、初期対応の方針について検討する。（講義形式）	長沼寛之			
13					
14	過誤が疑われる事案で問題となる法律の一般的な知識を前提として、医療過誤訴訟の特徴および訴訟対応、訴訟追行でのポイントについて、実務的な視点から解説し、訴訟提起された場合の医療機関と弁護士との連携について考察する。（講義形式）	渡邊健司			
15					
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、ディスカッションへの貢献度、リアクションペーパー等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先※<at>は@と置き換えて下さい
	三浦公嗣	随時	メール等	随時	drkmiura<at>fujita-hu.ac.jp
	飯島祥彦	随時	メール等	随時	yoshihiko.ijima<at>fujita-hu.ac.jp
	長沼寛之	随時	メール等	随時	h-naganuma<at>aichisogo.or.jp
	渡邊健司	随時	メール等	随時	k-watanabe<at>aichisogo.or.jp
	田原克志	講義担当日	メール等	講義後	
安田あゆ子	講義担当日	メール等	講義後		

病院設計・施設設備・医薬品医療材料管理

分野	病院管理学	学年	1年	期間	後期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	三浦公嗣				
担当教員	笥淳夫、山田成樹				
科目概要	<p>近年、医薬品・医療材料にかかる費用が増加する一方、診療報酬は抑制傾向にあり、医薬品等にかかるコストが病院経営に与える影響は大きくなっている。このため、病院経営に携わる者が医薬品等のマネジメントの方法を理解しておくことは病院経営の効率化を図るうえで重要である。また、地域ニーズの変化、災害の多発、医療DXの推進等に伴い、病院に求められる機能も変化している。これらに対応するための施設設備は経営に直結する問題であるため、病院経営に携わる者は施設の設計や設備に関する知識を身に付けておくことが必要である。</p> <p>この講義では、医薬品・医療材料のマネジメントの実践的な方法を学ぶとともに、病院に必要な物理的環境要件を踏まえた病院設計・施設設備に関する知識と建築マネジメントの方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p>				
到達目標	医薬品及び医療材料の管理に関する知識を修得する。また、病院に求められる物理的環境要件及び施設設備に関する基礎的知識を身に付ける。				
回数	講義内容				担当教員
1	<p>医薬品管理に関わるリスクと安全対策、適正使用、未承認・適応外使用等や、医薬品マネジメントにおける診療報酬と償還価格、医薬品関連法規（麻薬取締法等）、手術室における医薬品管理の可視化等について、病院現場での実践方法の事例を踏まえ、体系的に理解する。その他情報技術を活用した医薬品管理に関わるリスクと安全対策や共同購入、医薬品管理の可視化等の実践方法について学ぶ。</p>				山田成樹
2	<p>また、医療材料については、ゲストスピーカーの話を交えつつ、医療材料マネジメントサイクル、共同購買・価格交渉、SPDの可視化、滅菌管理、医療材料の在庫管理について、病院現場の実際例や企業等の取組事例を学ぶ。(講義形式・ディスカッション形式)</p>				
3	<p>病院の建物を整備する際の課題について学ぶ。具体的には施設整備の背景をベースにこれからの施設整備の考え方、建設コストの考え方と対策、成長と変化への対応など。(講義形式)</p>				笥 淳夫
4					
5	同上				山田成樹
6					
7	同上				笥 淳夫
8					
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、ディスカッションへの貢献度、リアクションペーパー等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先※<at>は@と置き換えて下さい
	三浦公嗣	随時	メール等	随時	drkmiura<at>fujita-hu.ac.jp
	山田成樹	随時	メール等	随時	syamada<at>fujita-hu.ac.jp
	笥 淳夫	講義担当日	メール等	講義後	

医療・介護制度論

分野	医療政策学	学年	1年	期間	後期
授業形態	講義	単位	2単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	伊藤善典				
担当教員	伊藤善典、葛西健、香取照幸、川又竹男、藤林慶子				
科目概要	<p>近年、少子高齢化・人口減少やグローバル化が進行し、財政制約が厳しくなる中で、地域における保健医療福祉の課題は多様化・複雑化しており、病院経営の持続可能性を確保するためには、経済社会情勢や制度改革の動向を把握し、今後の方向性を予測したうえで、適切な経営戦略を策定することが重要である。</p> <p>この授業では、医療・介護を中心として、社会保障制度の理念、考え方、歴史、仕組み、財源等について学び、社会保障制度の現状と課題に対する理解を深めるとともに、今後の方向性を考察することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p>				
到達目標	医療・介護等の社会保障制度の現状と課題を理解するとともに、今後の方向性を考察し、自院の経営戦略との関係を考える力を身に付ける。				
回数	講義内容				担当教員
1	授業の総論として、医療、介護、所得保障、子育て支援等の社会保障制度の理念、理論、歴史、制度体系、財源等を学ぶ。(講義形式)				伊藤善典
2					
3	患者の医療費の支払いを保障する制度について、医療保険、労災保険、医療扶助、公費負担医療、無料低額診療などの仕組みを学ぶ。(講義形式)				
4					
5	日本の医療サービスの提供体制の現状を概観し、その特徴を理解したうえで、医療施設や病床の規制、専門職の資格制度などの医療サービスの規制を行う医療法、医師法等の内容を学ぶ。(講義形式)				
6					
7	高齢者介護の現状を踏まえ、介護保険制度と介護サービスの理念、仕組み等を学ぶ。(講義形式)				
8					
9	医療・介護制度を中心に、社会保障制度改革の背景や考え方を理解したうえで、近年の動向を踏まえ、今後の方向性を考える。(講義形式)				香取照幸
10					
11	保険者の立場から見た医療保険制度や医療提供体制の現状と課題を踏まえ、望ましい制度のあり方を考える。(講義形式)				川又竹男
12	社会福祉の立場から見た医療制度の現状と課題を踏まえ、望ましい制度のあり方、医療と福祉との連携、特にIPE(Inter Professional Education)やソーシャルワーク等から医療のあり方を考える。(講義形式)				藤林慶子
13					
14	国際保健に関する様々な活動について理解し、国際機関がそこに果たす役割と、国際機関と連携して実施される各国内での取り組みの実例を学び、国際保健から見た医療提供の現状と今後のあり方を考える。(講義形式)				葛西 健
15					
準備学習	昨今の医療・介護制度改革の状況を調べておくことが望ましい。講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、リアクションペーパー等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				

担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	伊藤善典	随時	メール等	随時	yoshinori.ito.sv<at>fujita-hu.ac.jp
	葛西 健	講義担当日	メール等	講義後	
	香取照幸	講義担当日	メール等	講義後	
	川又竹男	講義担当日	メール等	講義後	
	藤林慶子	講義担当日	メール等	講義後	

診療報酬・介護報酬・関連法規

分野	医療政策学	学年	1年	期間	後期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	伊藤善典				
担当教員	伊藤善典、宇都宮啓、神田裕二、古元重和、三浦公嗣				
科目概要	<p>医療保険・介護保険制度においては、国民のニーズに応じた必要な医療介護サービスを提供する観点からの報酬設定がなされている。一方、人件費・物価の上昇が続く中で、診療報酬制度等の内容や改定の動向を理解することは、病院経営の健全性を維持する上で不可欠である。また、医療分野におけるDX政策の一環として、社会保険診療報酬支払基金は、これまでの診療報酬の審査支払業務に加え、日本における医療DX推進の母体として位置づけられることになった。</p> <p>この授業では、診療報酬制度・介護報酬制度に関する基礎的な知識とともに、関連する規則等の内容を説明する。また、診療報酬審査支払制度の仕組みを説明するとともに、社会保険診療報酬支払基金の改革と医療DXの推進に向けた取組みを紹介する。(オムニバス方式/全8回)</p>				
到達目標	診療報酬・介護報酬制度や診療報酬審査支払制度に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、社会保険診療報酬支払基金の改革や医療DXへの取組みを理解し、それらが病院経営に与える影響を考察する力を養う。				
回数	講義内容				担当教員
1	診療報酬制度及び関連規則等について、その基本的な理念・考え方や仕組みを理解するとともに、地域包括ケアシステムという言葉が法律に現れるようになった頃の状況、その流れを汲んだ近年の改革の方向性や病院経営に対する影響について考察する(講義形式)				宇都宮啓
2					
3	世界的な状況を踏まえたわが国の社会保障制度における医療・介護サービスの位置づけ、診療報酬・介護報酬とマクロ経済との関係等について俯瞰する。(講義形式)				三浦公嗣
4	介護報酬制度及び関連規則等について、その基本的な理念・考え方や仕組みを理解するとともに、近年の改革の方向性などについて理解する。(講義形式)				古元重和
5					
6	医療・介護のファイナンスの全体像を理解する。具体的には、国・自治体、保険者、社会保険診療報酬支払基金や都道府県国民健康保険団体連合会などを通じ、診療報酬・介護報酬、保険料、消費税などの資金がどのように流れているか概観する。(講義形式)				伊藤善典
7	診療報酬審査支払制度の仕組みを学ぶとともに、社会保険診療報酬支払基金の改革の動向を理解する。また、同基金で取り組んでいるオンライン資格確認、電子処方箋管理サービス、電子カルテ情報共有サービス、NDB等のデータの二次利用等、医療DXへの取組みについて理解する。(講義形式)				神田裕二
8					
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、リアクションペーパー等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				

担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	伊藤善典	随時	メール等	随時	yoshinori.ito.sv<at>fujita-hu.ac.jp
	三浦公嗣	随時	メール等	随時	drkmiura<at>fujita-hu.ac.jp
	宇都宮啓	講義担当日	メール等	講義後	
	神田裕二	講義担当日	メール等	講義後	
	古元重和	講義担当日	メール等	講義後	

医療産業論

分野	医療政策学	学年	1年	期間	後期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	伊藤善典				
担当教員	一戸和成、伊藤善典、真野俊樹、村川修一				
科目概要	<p>近年、少子高齢化・人口減少が進み、財政制約が強まる中で、医療保険制度や医療サービスの今後のあり方について不透明感が増している。これに加え、近年、在留外国人等の増加により医療制度・サービスの国際化が求められるとともに、医療保険制度の持続可能性を確保するため、急速に進む技術革新にどのように対応するのか検討が必要とされている。</p> <p>この授業では、このような状況を踏まえ、欧米諸国との間で医療・介護制度や医療の質についての国際比較を行い、日本の特徴と現在の立ち位置を確認するとともに、医療保険制度等の将来を展望しつつ、病院経営の未来を考えることを目的とする。</p> <p>(オムニバス形式/全8回)</p>				
到達目標	日本の医療・介護制度や医療サービスの質の国際的な位置づけを理解する。また、病院経営や医療保険制度の将来について考える力を養う。				
回数	講義内容				担当教員
1	主要先進国の医療・介護制度との国際比較を行い、日本の制度の特徴や国際的な位置づけを確認する。また、在留外国人等の増加に伴う医療制度・サービスの国際化の現状と課題を学ぶ。(講義形式)				伊藤善典
2					
3	病院経営者としての視点から、医療保険制度の現状と課題を整理し、医療保険制度の将来を展望するとともに、今後の病院経営の方向性、更には病院の未来を考える。(講義形式)				一戸和成
4					
5	未来の医療を描き、病院経営マネジメントを実践するため、今後の常識に縛られない、10年後以降の未来の病院を描く「バックキャスト思考」について、事前学習を基にプレゼンテーションを実施する。また、先端医療技術を社会実装することが期待される大学発ベンチャーやスタートアップ企業について、民間資金や病院医師のキャリアの観点から、事例に基づき、病院経営への活用を学ぶ。(講義形式、ディスカッション形式)				村川修一
6					
7	OECDのデータ等に基づき、①医療のレベル、②医療の身近さ、③投薬治療の状況、④医療の値段、⑤病院の環境、⑥高齢化対策の評価指標から欧米諸国と比較した日本の医療の現状を整理し、国際比較からみた今後の医療のあり方について体系的に理解する。(講義形式)				真野俊樹
8					
準備学習	国際化や技術革新の観点から、昨今の医療・介護制度やサービスの状況を調べておくことが望ましい。講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、リアクションペーパー等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	伊藤善典	随時	メール等	随時	yoshinori.ito.sv<at>fujita-hu.ac.jp
	村川修一	随時	メール等	随時	murakawa.s<at>fujita-hu.ac.jp
	一戸和成	講義担当日	メール等	講義後	
真野俊樹	講義担当日	メール等	講義後		

衛生学・公衆衛生学

分野	公衆衛生学	学年	1年	期間	前期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	亀井美登里				
担当教員	太田充彦、亀井美登里、松永眞章、八谷寛				
科目概要	<p>衛生学・公衆衛生学は、個人および集団の健康を守り、疾病を予防するための理論と実践を学ぶ科目である。健康の決定要因、疾病予防の枠組み、保健行政の基盤を理解し、公衆衛生活動を企画・評価する力を養う。</p> <p>公衆衛生の定義と歴史的発展、健康の概念と健康の社会的決定要因、疾病予防の段階とヘルスプロモーションの理論、保健統計と健康指標、感染症対策と予防接種政策、生活習慣病対策、保健行政・公衆衛生法規、公衆衛生の将来課題（健康格差、気候変動、人口動態変化など）等について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p>				
到達目標	<p>1. 公衆衛生の理念・歴史・制度を説明できる。</p> <p>2. 健康の社会的決定要因と健康格差を理解し、介入策を提案できる。</p> <p>3. 保健政策や公衆衛生施策の評価を行う視点を持つ。</p>				
回数	講義内容				担当教員
1	公衆衛生の定義と歴史的発展、健康の概念と健康の社会的決定要因等理解する。仕事に関連する心理社会的ストレス、作業関連性運動器障害、がんサバイバーの健康と就労および精神保健分野の予防医学等を学ぶ。データに基づく公衆衛生施策の立案を模擬的に行う。（講義形式）				太田充彦
2					
3	疾病予防の各段階とヘルスプロモーションに関する理論を理解する。あわせて、記述疫学の枠組み（人・場所・時間）、集団の健康水準を評価する健康指標、集団間を比較する手法として年齢調整を含む標準化について学ぶ。（講義形式）				松永眞章
4					
5	感染症対策と予防接種政策、生活習慣病対策、保健行政・公衆衛生法規、公衆衛生の将来課題（健康格差、気候変動、人口動態変化など）等理解する。（講義形式）				亀井美登里
6					
7	生涯にわたる循環器疾患の個人および集団のリスク、クロノタイプと肥満およびうつとの関係等理解する。（講義形式）				八谷 寛
8					
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、ディスカッションへの貢献度等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	亀井美登里	随時	メール等	随時	midori.kamei<at>fujita-hu.ac.jp
	太田充彦	随時	メール等	随時	ohtaa<at>fujita-hu.ac.jp
	松永眞章	随時	メール等	随時	mm-223<at>fujita-hu.ac.jp
	八谷 寛	講義担当日	メール等	講義後	

社会行動科学

分野	公衆衛生学	学年	1年	期間	前期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	亀井美登里				
担当教員	太田充彦、清野富久江、曾根智史、藤江里衣子				
科目概要	<p>社会行動科学は、健康に関する人間行動や社会構造を理解し、行動変容を促す理論と実践を学ぶ科目である。心理学、社会学、教育学の視点から、健康行動の決定因子と介入手法を探る。</p> <p>社会行動科学の基礎と公衆衛生への応用、個人レベルの健康行動理論、社会的認知理論と集団行動、コミュニティ・エンパワーメントと参加型アプローチ、健康教育とヘルスコミュニケーション、社会資本と健康格差、行動科学的介入の設計と評価、公衆衛生実践における社会行動科学の展望等を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p>				
到達目標	<p>1. 健康行動の理論 (Health Belief Model, SCT, TTM など) を説明できる。</p> <p>2. 行動変容を促す介入のデザインと評価ができる。</p> <p>3. 社会構造や文化的要因を考慮した公衆衛生アプローチを構想できる。</p>				
回数	講義内容				担当教員
1	社会行動科学の基礎と公衆衛生への応用、個人レベルの健康行動理論 (Health Belief Model, SCT, TTM など) の概要、行動科学的介入の設計と評価等を理解する。(講義形式)				曾根智史
2					
3	社会的認知理論と集団行動、コミュニティ・エンパワーメントと参加型アプローチ等理解する。コミュニティ・エンパワーメントと参加型アプローチの理論を活用した健康教育計画を作成する。(講義形式)				太田充彦
4					
5	健康教育およびヘルスコミュニケーションの理論と実践を基盤に、人々の健康行動が形成される社会的要因を学ぶ。あわせて、社会資本の概念に着目し、健康格差との関係を整理するとともに、国内外の研究や政策事例を通じて、社会環境の整備による健康行動支援の在り方を理解する。(講義形式)				清野富久江
6					
7	公衆衛生実践における組織や集団への介入を、心理アセスメントおよび心理療法に基づく社会・行動科学の視点から理解する。(講義形式)				藤江里衣子
8					
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、ディスカッションへの貢献度等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	亀井美登里	随時	メール等	随時	midori.kamei<at>fujita-hu.ac.jp
	太田充彦	随時	メール等	随時	ohtaa<at>fujita-hu.ac.jp
	藤江里衣子	随時	メール等	随時	rieko.fujie<at>fujita-hu.ac.jp
	清野富久江	講義担当	メール等	講義後	
	曾根智史	講義担当	メール等	講義後	

環境健康科学

分野	公衆衛生学	学年	1年	期間	前期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	亀井美登里				
担当教員	亀井美登里、山田宏哉、若月徹				
科目概要	<p>環境健康科学は、人間の健康に影響を与える物理的・化学的・生物的・社会的環境要因を科学的に理解し、リスク評価と予防対策を立案するための基礎である。</p> <p>環境と健康の関係概論、大気汚染と健康影響、水質・食品汚染と健康リスク、化学物質・内分泌かく乱物質、放射線・騒音・気候変動の健康影響、環境リスク評価とリスク管理、環境政策と環境基準、国際枠組み、環境保健の課題（持続可能性など）等を学ぶとともに、そのための実践方法を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p>				
到達目標	<p>1. 環境要因が健康に及ぼすメカニズムを説明できる。</p> <p>2. 環境リスク評価の枠組みを理解し、適用できる。</p> <p>3. 環境保健政策や国際的な枠組み（SDGs, WHO 指針など）を理解する。</p>				
回数	講義内容				担当教員
1	環境要因と健康影響の考え方、大気汚染と健康影響、水質・食品汚染と健康リスク、化学物質・内分泌かく乱物質、放射線・騒音・気候変動の健康影響、環境リスク評価とリスク管理、環境政策と環境基準、国際枠組み、環境保健の課題を学ぶ。（講義形式）				亀井美登里
2					
3	水質・食品汚染や環境化学物質による健康影響を、曝露評価および Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD) 視点から学ぶとともに、内分泌かく乱物質や低用量・慢性曝露の課題を理解する。さらに、気候変動や環境ストレスが健康に及ぼす影響について学び、環境健康科学の実践的課題を考察する。（講義形式）				山田宏哉
4					
5	災害時の環境保健と医療機能維持等について、能登地震の経験から学ぶ。（講義形式）				若月 徹
6					
7	避難所・地域における環境保健と脆弱者支援について、現場で実践された調整および課題等を学ぶ。（講義形式）				
8					
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、ディスカッションへの貢献度等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	亀井美登里	随時	メール等	随時	midori.kamei<at>fujita-hu.ac.jp
	山田宏哉	随時	メール等	随時	hyamada<at>fujita-hu.ac.jp
	若月 徹	随時	メール等	随時	wakatuki<at>fujita-hu.ac.jp

疫学

分野	公衆衛生学	学年	1年	期間	前期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	亀井美登里				
担当教員	太田充彦、松永眞章、八谷寛、山田宏哉				
科目概要	<p>疫学は、集団における健康状態や疾病の分布および要因を科学的に解析する学問である。疫学的思考を用いて健康課題を定量的に把握し、介入の効果を評価する力を養う。</p> <p>疫学の基礎概念と役割、疫学指標（率・比・リスク）、観察研究（横断・コホート・症例対照研究）、実験的研究（介入研究・RCT）、バイアス・交絡・効果修飾、疫学的データの解釈と因果推論、疫学研究の倫理とデータ管理、疫学の応用（感染症、慢性疾患、環境・社会疫学など）等を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p>				
到達目標	<p>1. 疫学研究の目的と主要なデザインを説明できる。</p> <p>2. 疫学指標（罹患率、死亡率、リスク比など）を計算・解釈できる。</p> <p>3. 疫学研究のバイアス・交絡を理解し、研究の妥当性を評価できる。</p>				
回数	講義内容				担当教員
1	疫学の基礎概念と役割、疫学指標（率・比・リスク）、観察研究（横断・コホート・症例対照研究）、実験的研究（介入研究・RCT）等を理解する。生活習慣病・心血管疾患発症予防に関する疫学等を学ぶ。健康施策の立案に適した疫学データの選択方法を学ぶ。（講義形式）				太田充彦
2					
3	疫学研究におけるバイアス、交絡、効果修飾の概念を体系的に理解し、研究デザインや解析結果がもつ限界と妥当性を評価する力を養う。疫学的データの解釈と因果推論の基本的枠組みを理解し、健康課題の理解や公衆衛生上の判断に活用する方法を学ぶ。（講義形式）				山田宏哉
4					
5	感染症、慢性疾患、環境・社会疫学など疫学の応用について理解する。コホート研究における肥満・糖尿病や心血管疾患等の生活習慣病の発症要因及び病態の疫学的解明等について学ぶ。（講義形式）				八谷 寛
6					
7	公的統計および医療リアルワールドデータを用いて、人口動態、医師需給および医療需要の将来変化を概観する。また、仮想データを用いた地域病院の事例検討を通して、データに基づき地域特有の課題を抽出し、解決策を立案するプロセスを学ぶ。（講義形式）				松永眞章
8					
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、ディスカッションへの貢献度等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	亀井美登里	随時	メール等	随時	midori.kamei<at>fujita-hu.ac.jp
	太田充彦	随時	メール等	随時	ohtaa<at>fujita-hu.ac.jp
	松永眞章	随時	メール等	随時	mm-223<at>fujita-hu.ac.jp
	山田宏哉	随時	メール等	随時	hyamada<at>fujita-hu.ac.jp
	八谷 寛	講義担当日	メール等	講義後	

生物統計学

分野	公衆衛生学	学年	1年	期間	前期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	亀井美登里				
担当教員	宇田淳、嘉田晃子、國澤進、吉本潤一郎				
科目概要	<p>生物統計学は、公衆衛生学・疫学研究を支えるデータ解析の基礎を提供する学問であり、統計的推測の考え方、研究デザイン、主要な解析方法などを実践的に学ぶ。</p> <p>生物統計学の役割とデータの基本、データの記述と要約（代表値・分散・グラフ）、推定と検定、相関と回帰、主要な解析方法（回帰分析、ロジスティック回帰等）、統計解析ソフトを用いた演習と解釈等を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データの種類と代表値・散布度を理解し、適切に記述できる。 2. 統計的推測（信頼区間・検定）の考え方を説明できる。 3. 回帰分析などを用いた健康データの解析を理解できる。 				
回数	講義内容				担当教員
1	生物統計学の役割とデータの基本、データの記述と要約（代表値・分散・グラフ）等を理解する。機械学習、医療AI等について学ぶ。（講義形式）				吉本潤一郎
2					
3	推定と検定、相関と回帰、回帰分析、ロジスティック回帰等を理解する。統計解析ソフトを用いた演習を行う。研究デザインや解析等を学ぶ。（講義形式）				嘉田晃子
4					
5	DPCデータを用いた医療の質としてのプロセスやアウトカム、地域の実情に応じて医療提供体制構築推進のための医療情報解析等を学ぶ。（講義形式）				國澤 進
6					
7	GISを用いるなど地域の医療・福祉の状況を可視化し、退院支援や地域連携、業務改善に活かす視点を養う。また、DXを前提とした電子カルテ運用や医療情報の活用に加え、生成AIを活用した記録補助、情報整理、業務支援の可能性と注意点を、現場活用を想定しながら学ぶ。（講義形式）				宇田 淳
8					
準備学習	講師が事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、ディスカッションへの貢献度等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	亀井美登里	随時	メール等	随時	midori.kamei<at>fujita-hu.ac.jp
	嘉田晃子	随時	メール等	随時	akiko.kada<at>fujita-hu.ac.jp
	吉本潤一郎	随時	メール等	随時	junichiro.yoshimoto<at>fujita-hu.ac.jp
	宇田 淳	講義担当日	メール等	講義後	j-uda<at>juhs.ac.jp
國澤 進	講義担当日	メール等	講義後	kunisawa.susumu.2v<at>kyoto-u.ac.jp	

病院経営の実際・病院再編統合

分野	総合学習	学年	2年	期間	前期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	三浦公嗣				
担当教員	相澤孝夫、伊藤伸一、江澤和彦、仲井培雄				
科目概要	病院の経営を実践するとともに、医療関係団体のトップを務める担当教員から病院の再編統合を含めて地域医療や病院経営のあり方等について豊富な経験に基づく話を聞き、自院の経営について考える上での知見を得る。 (オムニバス方式/全8回)				
到達目標	政策の動向や地域医療の状況を含め、病院経営を取り巻く環境全体を俯瞰しつつ、自院の課題解決に向けた具体的な取組みを行うことができる実践力を身に付ける。				
回数	講義内容				担当教員
1	地域包括ケア推進病棟協会会長である担当教員から、高齢マルチモビディティ患者を支える地域包括ケア・医療病棟の課題や同協会の活動について話を聞き、地域包括ケアと病院経営のあり方について考察する。(講義形式)				仲井培雄
2					
3	社会医療法人理事長であり、かつ、日本医療法人協会会長である担当教員から大規模地域医療機関の経営の実務や医療法人協会の活動について話を聞き、病院経営のあり方について考察する。(講義形式)				伊藤伸一
4					
5	日本医師会常任理事である担当教員から医療機関・介護施設の経営の実務や日本医師会の活動について話を聞き、病院や介護施設の経営のあり方について考察する。(講義形式)				江澤和彦
6					
7	社会医療法人理事長であり、かつ、日本病院協会会長である担当教員から地域医療機関の経営の実務や日本病院会の活動について話を聞き、病院経営のあり方を考察する。(講義形式)				相澤孝夫
8					
準備学習	事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、リアクションペーパーの内容等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	三浦公嗣	随時	メール等	随時	drkmiura<at>fujita-hu.ac.jp
	相澤孝夫	講義担当日	メール等	講義後	
	伊藤伸一	講義担当日	メール等	講義後	
	江澤和彦	講義担当日	メール等	講義後	
仲井培雄	講義担当日	メール等	講義後		

実践的に考える組織・人材マネジメント

分野	総合学習	学年	2年	期間	前期
授業形態	講義	単位	1単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	三浦公嗣				
担当教員	石川賀代、浅野晃司、中島雄一、野々村純				
科目概要	<p>組織・人材マネジメントは、経営戦略達成に向け、ガバナンスを適切に確保しつつ、人材を有効に活用するため、採用、育成、評価、配置など人に関する施策を一体的に管理する仕組みである。特に病院は労働集約型産業で、かつ、多様な専門職が働く場であり、病院の経営が円滑に行われ、かつ、その機能が最大限発揮されるようにするためには、適切な組織・人材マネジメントを行うことが不可欠である。地域や職種によって状況は異なるものの、近年、専門職の採用が厳しくなるとともに、働き方改革により適切な労働時間管理や業務運営の効率化が求められており、病院経営に携わる者は組織・人材マネジメントの重要性を認識することが重要である。</p> <p>現在、病院経営に従事している担当教員から、現場において直面する組織・人材マネジメント上の様々な課題について豊富な経験に基づく話を聞き、自院における組織・人材マネジメントのあり方を考える上での知見を得る。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p>				
到達目標	病院における組織・人材マネジメントの重要性を理解するとともに、自院における組織・人材マネジメントのあり方を考えることができる実践力を身に付ける。				
回数	講義内容				担当教員
1	地方独立行政法人広島県立病院機構副理事長である担当教員から人材マネジメントの実情について話を聞き、病院経営における人材マネジメントのあり方を考察する。(講義形式)				野々村純
2					
3	倉敷中央病院経営企画部部長である担当教員から大規模急性期病院における人材・組織マネジメントの実情、ガバナンス、人事制度等の改革への取組みについて話を聞き、病院経営における人材マネジメントのあり方を考察する。(講義形式)				中島雄一
4					
5	竹田健康財団の理事長である担当教員から病院における人材マネジメントの実情を聞き、病院経営における人材マネジメントのあり方を考察する。(講義形式)				浅野晃司
6					
7	HITO病院理事長である担当教員から地域医療機関における人材マネジメントの実情を聞き、医療DXの活用を含め、病院経営における人材マネジメントのあり方を考察する。(講義形式)				石川賀代
8					
準備学習	事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、リアクションペーパーの内容等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	三浦公嗣	随時	メール等	随時	drkmiura<at>fujita-hu.ac.jp
	浅野晃司	講義担当日	メール等	講義後	
	石川賀代	講義担当日	メール等	講義後	
	中島雄一	講義担当日	メール等	講義後	
野々村純	講義担当日	メール等	講義後		

多視点から考える総合経営

分野	総合学習	学年	2年	期間	前期
授業形態	講義	単位	2単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	三浦公嗣				
担当教員	新井ゆたか、斉藤正身、正林和子、橋本康子、眞野恵子、南砂、山内昌彦、若月徹				
科目概要	この授業では、病院経営者や医療関係団体のトップから豊富な経験に基づく実践的な講義を聞くとともに、各界で活躍する有識者から、多様な視点に基づき、病院経営を円滑に進めるうえで重要となる事項について話を聞く。学生は、病院経営とこれらのテーマの関連を理解し、自院の経営について考える上での知見を得る。 (オムニバス方式/全8回)				
到達目標	病院経営に対する様々な視点を理解しつつ、自院の課題解決に向けた取組みを総合的に考えることができる実践力を身に付ける。				
回数	講義内容				担当教員
1	医療法人・社会福祉法人の理事長であり、かつ、日本リハビリテーション病院・施設協会会長である担当教員から、地域における医療・介護サービスの連携や同協会の活動について話を聞き、病院経営のあり方を考察する。(講義形式)				斉藤正身
2					
3	医療法人理事長であり、かつ、日本慢性期医療協会会長である担当教員から、地域における医療・介護サービスの連携や同協会の活動について話を聞き、病院経営のあり方を考察する。(講義形式)				橋本康子
4					
5	病院経営を多角的に捉えるため、最大組織である看護部の組織力を経営戦略にいかんにか活用するか。データの「可視化」による収益改善にむけたプロセスや、組織基盤となる人材確保戦略など看護部門の実践事例を通し、経営の質向上に寄与する組織・人材マネジメントの在り方を考察する。(講義形式)				眞野恵子
6					
7	本学の防災教育センター副センター長である担当教員から、リスク分析の手法、リスクマネジメントの実際などについて話を聞き、病院経営における危機管理のあり方を考察する。(講義形式)				若月 徹
8					
9	消費者庁の前長官である担当教員から、消費者行政の視点から話を聞き、病院における医療サービス提供のあり方を考察する。(講義形式)				新井ゆたか
10					
11	NHKの元広報部長で、本学の広報部長である担当教員から、メディア(テレビ)の視点から話を聞き、病院経営におけるメディア対応のあり方を考察する。(講義形式)				山内昌彦
12					
13	読売新聞社東京本社常務取締役である担当教員から、メディア(新聞)の視点から話を聞き、病院経営におけるメディア対応のあり方を考察する。(講義形式)				南 砂
14					
15	正林国際特許商標事務所代表社員・会長である担当教員から知的財産権の管理の理論と実務について話を聞き、病院における知財管理のあり方を考察する。(講義形式)				正林和子
準備学習	事前に配布する資料を読んでおくこと。				
成績評価	受講時の取組姿勢、リアクションペーパーの内容等により総合評価する。				
フィードバック	質問等はメールで対応する。				
教材・参考書	講義資料を配布する。参考書については、必要に応じ、授業の中で紹介する。				

担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	三浦公嗣	随時	メール等	随時	drkmiura<at>fujita-hu.ac.jp
	眞野恵子	随時	メール等	随時	smano<at>fujita-hu.ac.jp
	山内昌彦	随時	メール等	随時	masahiko.yamauchi<at>fujita-hu.ac.jp
	若月徹	随時	メール等	随時	wakatuki<at>fujita-hu.ac.jp
	新井ゆたか	講義担当日	メール等	講義後	
	斉藤正身	講義担当日	メール等	講義後	
	正林和子	講義担当日	メール等	講義後	
	橋本康子	講義担当日	メール等	講義後	
	南 砂	講義担当日	メール等	講義後	

課題研究

分野	総合学習	学年	1～2年	期間	通年
授業形態	課題研究	単位	4単位	授業方法	遠隔授業
科目責任者	三浦公嗣				
担当教員	伊藤善典、亀井美登里、三浦公嗣				
科目概要	<p>これまでの授業で得た知識や教員との議論を踏まえ、学生が研究対象とする病院の経営課題を見出し、研究テーマを設定したうえで、課題解決に向けた経営戦略を策定するとともに、その結果を成果物報告書としてとりまとめる。研究は、できるだけ定量的な指標を活かしながら実施する。授業で学んだ知識や方法を活用し、経営環境分析、病院の財務諸表や経営指標の分析、職場環境や働き方の調査、地域の状況や市場動向の把握、政策動向の分析等を行うとともに、教員や他の学生、職場の同僚等と議論を重ねることにより、論理を明確にしつつ、課題解決の具体的方策を明らかにする。報告会では、研究成果物について、第三者にもわかりやすく、かつ、説得力のあるプレゼンテーションを行う。</p> <p>(全30回)</p>				
到達目標	病院経営における課題を自ら設定したうえで、様々な手法を用いてデータや資料を収集・分析し、課題解決に向けた経営戦略を策定することができる。また、その内容について、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				
回数	講義内容				担当教員
1～30	<p>① 10月10日(4限)、オリエンテーション</p> <p>②～④ 11月末までに研究テーマ、指導教員を決定</p> <p>⑤～⑦ 12月末までに指導教員と打ち合わせの上、研究計画書を医学部事務部学務課に提出</p> <p>⑧～⑩ 1～2月、研究成果物の骨子案を作成</p> <p>⑪ 2月6日(2限)、課題研究骨子報告会</p> <p>⑫～⑬ 3～4月、研究成果物の中間報告案の作成</p> <p>⑭～⑯ 5月8・15日(3・4限)、課題研究中間報告会</p> <p>⑰～⑲ 5～7月、研究成果物の作成</p> <p>⑳～㉑ 8月7日(1～4限)、課題研究成果物報告会</p>				三浦公嗣 伊藤善典 亀井美登里
準備学習	自院の経営課題に対する問題意識を明確化するとともに、研究成果物作成のために必要な資料を収集しておくことが望ましい。				
成績評価	課題研究に取り組む態度(30%)、研究成果物報告書(40%)、中間報告会及び成果物報告会におけるプレゼンテーション(30%)により評価する。				
フィードバック	指導教員等に対する質問や相談は、オンライン又はメールで対応する。				
教材・参考書	指導教員等が個別に指示する。				
担当教員 オフィス アワー	教員名	曜日	場所	時間	連絡先 ※<at>は@と置き換えて下さい
	三浦公嗣	随時	メール等	随時	drkmiura<at>fujita-hu.ac.jp
	伊藤善典	随時	メール等	随時	yoshinori.ito.sv<at>fujita-hu.ac.jp
	亀井美登里	随時	メール等	随時	midori.kamei<at>fujita-hu.ac.jp

2026年度 科目担当教員（一部掲載）

分野	授業名	科目担当者（青色は外部講師）	
病院経営学	リーダーシップ・ガバナンス	三浦公嗣 藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授	
		亀井美登里 藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授	
		伊藤善典 藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授	
		眞野恵子 藤田医科大学 統括看護部長 藤田医科大学東京 先端医療研究センター 事業部長	
		小山秀夫 社会医療研究所 所長	
	財務会計論・経営分析・コスト分析	佐藤忠明 OAG監査法人 エグゼクティブアドバイザー	
		橋本公成 OAG監査法人 パートナー	
		辻井芳樹 OAG監査法人 パートナー	
		赤宗謙太 OAG監査法人 マネージャー代理	
		清水健志 OAG監査法人 マネージャー	
		恩田勲 GTMグループ 代表	
	地域包括ケア・医療マーケティング	堀江裕 藤田医科大学地域共生社会推進センター センター長	
		金田嘉清 藤田医科大学 地域包括ケア中核センター センター長	
		都築晃 藤田医科大学 地域連携教育推進センター 副センター長	
		辻一郎 東北大学大学院医学系研究科 公衆衛生学分野 客員教授	
	医療経済学	伊藤善典 藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授	
		田中将之 特定非営利活動法人日本医療経営機構 主幹研究員	
	病院経営戦略論	森川富昭 藤田医科大学 医学部リアルワールドデータ研究・開発 教授	
		成田吉明 医療法人溪仁会 理事長	
		飯塚勝美 藤田医科大学大学院 医学研究科臨床栄養学 教授	
	フィールドワーク	今泉和良 藤田医科大学病院 病院長	
		金田嘉清 藤田医科大学 地域包括ケア中核センター センター長	
		都築晃 藤田医科大学 地域連携教育推進センター 副センター長	
		木下隆志 兵庫県立大学社会科学部 教授	
	病院管理学	病院管理学・機能評価	池上直己 慶應義塾大学 名誉教授
			伊藤善典 藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授
			上田茂 公益財団法人日本医療機能評価機構 専務理事
		医療の質管理・患者安全・倫理	飯島祥彦 藤田医科大学大学院医学研究科医事法・医療倫理学 教授
安田あゆ子 国立病院機構名古屋医療センター・外科/医療安全管理部 部長			
田原克志 一般社団法人 日本医療安全調査機構 専務理事			
長沼寛之 藤田医科大学病院 病院長付補佐			
渡邊健司 弁護士法人愛知総合法律事務所 弁護士			
病院設計・施設設備・医薬品医療材料管理		山田成樹 藤田医科大学大学院医学研究科薬物治療情報学 教授	
		寛淳夫 工学院大学 建築学部建築デザイン学科 教授	
医療政策学		医療・介護制度論	伊藤善典 藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授
	香取照幸 一般社団法人未来研究所臥龍 代表理事		
	川又竹男 全国健康保険協会 理事		
	藤林慶子 日本医療大学通信教育部総合福祉学部ソーシャルワーク学科 教授		
	葛西健 国際医療福祉大学 客員教授		
	診療報酬・介護報酬・関連法規	宇都宮啓 慶應義塾大学 医学部 客員教授	
		三浦公嗣 藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授	
		古元重和 北海道大学大学院医学研究院医療政策評価学教室 教授	
		伊藤善典 藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授	
		神田裕二 前 社会保険診療報酬支払基金 理事長	
	医療産業論	伊藤善典 藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授	
		村川修一 藤田医科大学 キャリア教育センター 特任准教授（URA）	
		一戸和成 医療法人社団和楽仁芳珠記念病院 副理事長	

分野	授業名	科目担当者（青色は外部講師）	
公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学	太田充彦	藤田医科大学大学院医学研究科公衆衛生学 教授
		亀井美登里	藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授
		松永眞章	藤田医科大学大学院医学研究科公衆衛生学 准教授
		八谷寛	名古屋大学大学院医学系研究科 国際保健医療学・公衆衛生学 教授
	社会行動科学	太田充彦	藤田医科大学大学院医学研究科公衆衛生学 教授
		藤江里衣子	藤田医科大学 医学部医療コミュニケーション 講師
		清野富久江	国立保健医療科学院 生涯健康研究部 部長
	環境健康科学	若月徹	藤田医科大学 防災教育センター 教授
		亀井美登里	藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授
		山田宏哉	藤田医科大学大学院医学研究科衛生学 准教授
	疫学	太田充彦	藤田医科大学大学院医学研究科公衆衛生学 教授
		山田宏哉	藤田医科大学大学院医学研究科衛生学 准教授
		松永眞章	藤田医科大学大学院医学研究科公衆衛生学 准教授
		八谷寛	名古屋大学大学院医学系研究科 国際保健医療学・公衆衛生学 教授
	生物統計学	嘉田晃子	藤田医科大学 橋渡し研究統括本部 橋渡し研究シーズ探索センター 特任准教授
		吉本潤一郎	藤田医科大学大学院医学研究科医用データ科学 教授
國澤進		京都大学大学院医学研究科医療経済学分野 准教授	
宇田淳		滋慶医療科学大学大学院 教授	
総合学習	病院経営の実際・病院再編統合	仲井培雄	一般社団法人地域包括ケア推進病棟協会 会長 医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院 理事長
		伊藤伸一	社会医療法人大雄会 理事長
		江澤和彦	日本医師会常任理事
		相澤孝夫	社会医療法人財団 慈泉会 理事長・相澤病院最高経営責任者
	実践的に考える組織・人材マネジメント	野々村純	地方独立行政法人広島県立病院機構 副理事長
		中島雄一	大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 経営企画部 執行役員 経営企画部長
		浅野晃司	一般財団法人竹田健康財団 理事長
		石川賀代	社会医療法人石川記念会HITO病院 理事長
	多視点から考える総合経営	斉藤正身	医療法人真正会 霞ヶ関南病院 理事長
		橋本康子	医療法人社団和風会 理事長 日本慢性期医療協会 会長
		眞野恵子	藤田医科大学 統括看護部長 藤田医科大学東京 先端医療研究センター 事業部長
		若月徹	藤田医科大学 防災教育センター 副センター長
		正林和子	弁理士法人正林国際特許商標事務所 代表社員
		山内昌彦	藤田医科大学 法人本部広報部 部長
		南砂	読売新聞東京本社 常務取締役 調査研究担当
	課題研究	三浦公嗣	藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授
		亀井美登里	藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授
		伊藤善典	藤田医科大学大学院医学研究科専門職学位課程 特命教授